

エコアクション21

環境経営レポート

(2021年度)

活動期間2021年4月～2022年3月



仁尾興産株式会社

発行日 2022年11月24日

目次

1. 組織の概要及び対象範囲
 - 1) 事業所の所在地及び代表者氏名
 - 2) 所在地
 - 3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
 - 4) 事業内容
 - 5) 事業の規模
 - 6) 事業年度
 - 7) 認証・登録範囲
2. 実施体制
 - 1) エコアクション21推進組織図
 - 2) 各自の役割・責任及び権限
3. 環境経営方針
4. 環境経営目標
 - 1) 本社（化成品事業部・管理部（不動産事業含む）・カフェ）
 - 2) 坂出冷蔵倉庫
5. 環境経営計画
6. 環境経営目標の実績
 - 1) 本社（化成品事業部・管理部（不動産事業含む）・カフェ）
 - 2) 坂出冷蔵倉庫
7. 環境経営計画の取り組み結果とその評価、
次年度の取り組み内容
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び、評価の結果、
並びに訴訟等の有無
9. 代表者による全体評価と見直し・指示

1. 組織の概要及び対象範囲（認証・登録範囲）

□ 組織の概要

(1) 名称及び代表者

仁尾興産株式会社
代表取締役 塩田 健一

(2) 所在地

本社 香川県三豊市仁尾町仁尾辛1番地
化成工場 香川県三豊市仁尾町仁尾辛1番地
東京営業所 東京都新宿区新宿4-3-17
FORECAST新宿SOUTHビル6階
坂出冷蔵倉庫 香川県坂出市入船町1丁目4番1号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 高橋 寛栄
EA21事務局 福岡 美春
TEL: 0875-82-3456

(4) 事業内容

塩化マグネシウム(にがり)の製造・販売業
冷凍冷蔵倉庫業
不動産業
飲食店業(2018年10月、本社敷地内にてカフェ開店)

(5) 事業の規模

【資本金】 7,350万円
【総売上高】 11億6千万円 (2021年4月1日～2022年3月31日)
化成品事業 9億5千万円 (東京営業所売上含む)
倉庫事業 1億万円
不動産事業 8千万円
新規事業 1千万円 (カフェ部門)

	本社 (不動産・新規事業含む)	化成工場	東京営業所	坂出冷蔵倉庫
従業員	17名	23名	1名(本社兼任)	6名
延べ床面積	486.49㎡	9,462.99㎡	1㎡	5,680.82㎡

(6) 事業年度

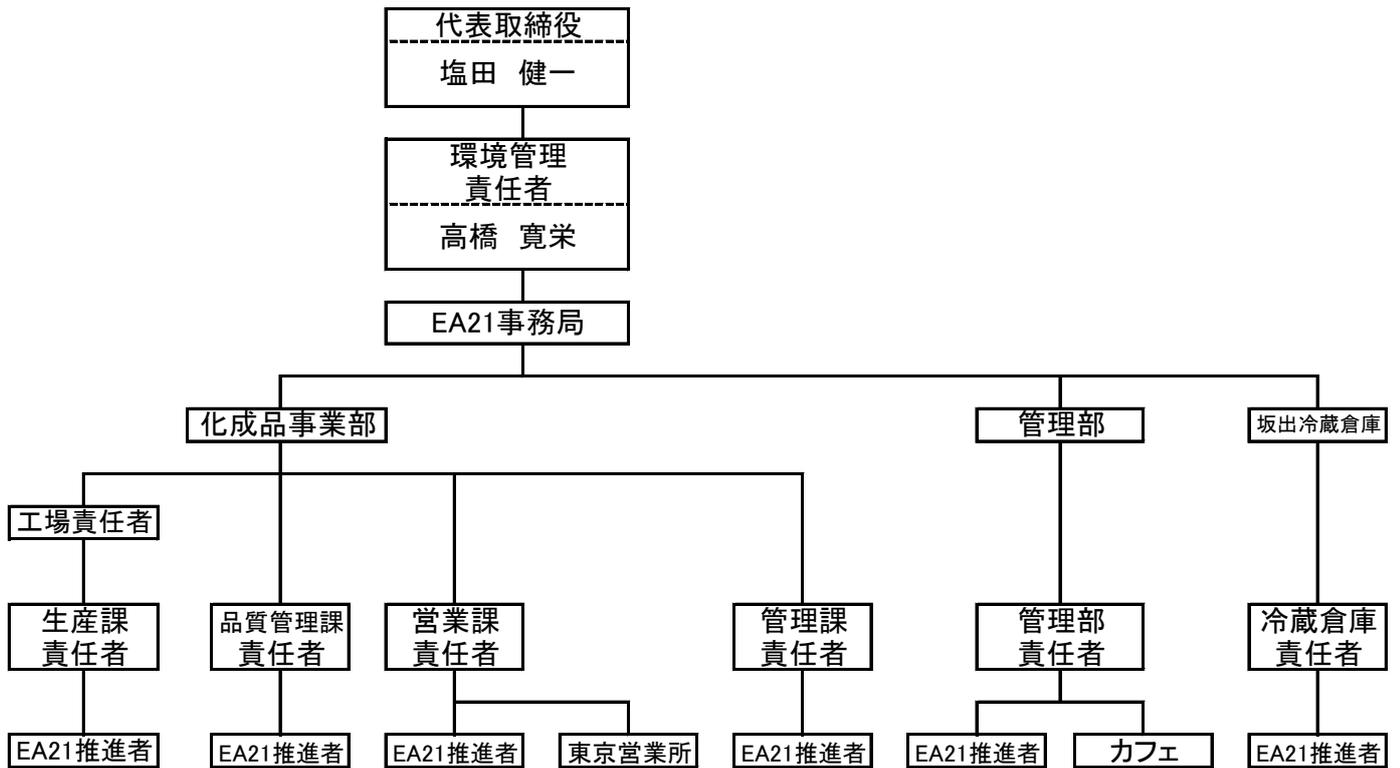
4月～3月

(7) 認証・登録範囲

登録事業所:
本社
化成工場
カフェ部門
坂出冷蔵倉庫
東京営業所

2. 実施体制

1) エコアクション21推進組織図



2. 実施体制

2) 各自の役割・責任及び権限

		役割・責任・権限
代表取締役		<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な、人、設備、費用、時間を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定、見直し及び全従業員への周知 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境経営レポートの承認 ・環境関連法規等取りまとめ表の承認 ・環境経営目標、環境経営計画書を承認 ・自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル承認
環境管理責任者		<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境経営の取り組み結果を代表者に報告 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境経営レポートの確認 ・環境経営目標、環境経営計画書の確認 ・自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル確認 ・全従業員に対する教育・訓練の実績記録表の承認 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置票管理表の承認 ・環境関連の外部コミュニケーションの記録受付表承認
エコアクション21事務		<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐 ・環境経営レポートの作成 ・環境負荷の自己チェック及び、環境への取り組みの自己チェック実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境経営目標、環境経営の実績集計 ・全従業員に対する教育・訓練の実績記録表の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置票管理表の作成 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口・記録受付表作成
エコアクション21責任者	管理部 (カフェ含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施 ・全従業員に対する教育・訓練の実施
	化成品事業部管理課	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
	化成品事業部営業課 (東京営業所含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
	化成品事業部生産課	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
	化成品事業部品質管理課	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
	化成品事業部業務課	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
	坂出冷蔵倉庫	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員		<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的、積極的に環境経営へ参加

環境経営方針

環境理念

私たちは地球環境と事業活動の調和を図り、豊かな社会づくりと地球環境保全に貢献します。

環境保全

- ①当社は、あらゆる企業活動を通じて、環境保全への取り組みを積極的に実施し、環境経営の継続的改善に努めます。
- ②環境や食品安全に関する法律、規制、協定などを遵守します。
- ③事業活動における二酸化炭素(CO₂)、廃棄物、排水量などの排出抑制および削減に努めます。
- ④食品(食品添加物)廃棄物の削減を推進します。製品の歩留まり向上と使用原材料のロスの削減を促進します。

環境啓発

- ①日常業務や社内教育などを通じて、環境保全活動に対する社員の理解と意識の向上に努めます。
- ②環境レポートを公表し、透明性のある環境保全活動に努めます。

4. 環境経営目標

1) 本社（化成品事業部・管理部（不動産事業含む）・カフェ）

目的	単位	目 標				
		基準年(2019年度)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素の削減 * 1	kg-CO ₂	1,369,255				
二酸化炭素排出量／総生産量	kg-CO ₂ /t	171.05	169.69	169.65	169.60	169.55
A重油の排出量	L	442,400	439,450	446,600	453,950	461,300
A重油CO ₂ 排出量／塩マグ生産量	kg-CO ₂ /t	205.58	205.30	205.10	205.00	204.90
廃棄物排出量の削減	kg	60,634	60,000	59,500	59,000	58,500
食品(食品添加物)廃棄物のリサイクル率	%	100.00	99.50	99.50	99.50	99.50
食品(食品添加物)廃棄物のリサイクル率(カフェ部門)	%	100.00	99.50	99.50	99.50	99.50
水総使用量の削減	m ³	9,840				
水総使用量／総生産量	m ³ /t	1.22	1.20	1.20	1.20	1.20
組織本来の取組（環境配慮）*	件数	2	2	2	2	2
組織本来の取組（環境配慮）(カフェ部門) * 3	件数	1	2	2	2	2
総生産量	t	8,005	8,100	8,200	8,300	8,400
塩マグ生産量(重油使用製品)	t	5,831	5,800	5,900	6,000	6,100

- * 1. 電力のCO₂発生量については、
 (株)吉田石油の調整後排出係数0.453(kg-CO₂/kWh)を使用した。
 (環境省公表2019年度実績に基づく)
- * 2. 組織本来の取組(環境配慮)について
 ・老朽化した旧館の解体を行う
 ・舗装なし本社駐車場に二次製品を散布する
 (防塵テスト及び環境整備)
- * 3. 組織本来の取組(環境配慮)(カフェ部門)について
 ・食品廃棄物の減少のため、大盛や小盛などお客様のニーズにお応えする(小盛メニューの提供や、お声かけの実施)
- * 2014年東京営業所開設。
 他社共有フロアの1デスクでの営業(常在していない)となるため、環境負荷は極めて小さく数値では算定できないので策定していない。
 2019年カフェにがり衛門(飲食店業)拡大。
 電気や水道の設備は本社工場の1部であり、カフェ単体で数値化するのは困難なため、本社工場と合わせて評価の対象とする。
- * 化学物質の使用はなし

4. 環境経営目標

2) 坂出冷蔵倉庫

目的	単位	目 標				
		基準年(2019年度)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素の削減 *1	kg-CO ₂	538,113				
二酸化炭素排出量/売上高	kg-CO ₂ /千円	4.08	3.78	3.75	3.70	3.65
廃棄物排出量の削減 *2	kg	1,680	1,600	1,500	1,400	1,300
水総使用量の削減	m ³	7,021				
水総使用量/売上高	m ³ /千円	0.053	0.015	0.014	0.013	0.012
組織本来の取組(環境配慮)*	件数	1	1	1	1	1
売上高	千円	131,927	112,000	113,000	114,000	115,000

* 1. 電力のCO₂ 発生量については、
四国電力の調整後排出係数0.528(kg-CO₂ /kWh)を使用した。
(四国電力発表2018年度実績に基づく)

* 2. 廃棄物排出量の削減については、
施設改修や不要品撤去を予定しているため、多量の排出を計画している。

* 3. 組織本来の取組(環境配慮)について
・駐車場整備をし環境改善を行う。

* 化学物質の使用はなし

5. 環境経営計画

1) 本社（化成品事業部・管理部（不動産事業含む）・カフェ）

環境目標	目的	活動計画
(1) 二酸化炭素	A重油使用量の削減	・炉の計画的なメンテナンスにより燃焼効率を高める
	電気使用量の削減	・エアコンフィルタ清掃を年二回実施 ・クールビズ、ウォームビズ推進 ・夏季におけるよしずや遮光カーテンの活用
	ガソリンの二酸化炭素削減	・出張時の公共交通機関の利用推進 ・エコドライブの励行、燃費向上
(2) 廃棄物	一般廃棄物の削減	・分別、ペーパーレス化 ・文書管理の徹底
	産業廃棄物の削減	・保管状態の改善、5S ・分別の徹底
(3) 食品(食品添加物) 廃棄物のリサイクル率	食品廃棄物の削減	・二次製品再利用法の開発 ・廃油のリサイクル業者への提供 ・トンネルコンポスト方式を行う業者への回収の依頼
(4) 水使用量	水使用量の削減	・節水ポスターなどで、節水意識の向上を図る ・漏水点検を行う
(5) 環境教育	社員啓発活動	・緊急時対応＝消防訓練・A重油漏洩対策対応訓練 ・教育訓練年間計画に基づき実施(5S活動含む)
(6) 組織本来の取組	製品の環境配慮	・環境配慮 ・新商品の開発 ・小盛への対応

5. 環境経営計画

2) 坂出冷蔵倉庫

環境目標	目的	活動計画
(1) 二酸化炭素	電気使用量の削減	<ul style="list-style-type: none">・デマンド監視装置による確認(デマンド値を下げる)・エアコンフィルタ清掃を年二回実施・クールビズ、ウォームビズ推進
(2) 廃棄物	一般廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none">・分別、ペーパーレス化・文書管理の徹底
	産業廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none">・保管状態の改善、5S・分別の徹底
(3) 水使用量	水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none">・節水ポスターなどで、節水意識の向上を図る・漏水点検を行う
(4) 組織本来の取組	製品の環境配慮	<ul style="list-style-type: none">・環境配慮

環境経営目標の実績

1) 本社（化成品事業部・管理部（不動産事業含む）・カフェ）

○取組期間 2021年4月 ～ 2022年3月

目的	単位	基準年 2019年	目標 (2021年4月～ 2022年3月)	実績 (2021年4月～ 2022年3月)	達成率	評価
二酸化炭素の削減 * 1	kg-CO ₂	1,369,255		1,306,859		
二酸化炭素排出量／総生産量	kg-CO ₂ /t	171.05	169.65	132.77	127%	○
A重油の使用量	L	442,400	446,600	409,297	91%	△
重油CO ₂ 排出量／塩マグ生産量	kg-CO ₂ /t	205.58	205.10	194.46	105%	○
廃棄物排出量の削減	kg	60,634	59,500	57,831	102%	○
食品(食品添加物)廃棄物の リサイクル率	%	100.00	99.50	99.50	100%	○
食品(食品添加物)廃棄物の リサイクル率(カフェ部門)	%	100.00	99.50	99.50	100%	○
水総使用量の削減	m ³	9,840		9,440		
水総使用量／総生産量	m ³ /t	1.22	1.20	0.96	125%	○
組織本来の取組(環境配慮)* 2	件数	2	2	2	100%	○
組織本来の取組(環境配慮) (カフェ部門)* 3	件数	1	2	2	100%	○
総生産量	t	8,005	8,200	9,843	120%	○
塩マグ生産量(重油使用製品)	t	5,831	5,900	5,704	97%	△

【評価基準】

○:達成 △:未達成だが、努力が見られる ×:未達成

【コメント】

- ①原単位(二酸化炭素排出量／総生産量)について、夏季は歩留まりが悪いので運転を停止したことにより電気使用量の削減につながり目標達成した
- ②A重油の使用量について、8.9月運転を停止したため削減となった。
- ③食品廃棄物リサイクル率についてはトンネルコンポスト方式を行う業者への引き渡しや防塵テスト散布などを行い、目標達成した。
- ④水使用量は目標達成しているが、前年より922増えたのは、8月に地下タンクの清浄を行ったためである。

環境経営目標の実績

2) 坂出冷蔵倉庫

○取組期間 2021年4月 ~ 2022年3月

目的	単位	基準年 2019年	目標 (2021年4月～ 2022年3月)	実績 (2021年4月～ 2022年3月)	達成率	評価
二酸化炭素の削減 *1	kg-CO ₂	538,113		436,364		
二酸化炭素排出量／売上高	kg-CO ₂ /千円	4.08	3.75	3.99	94%	△
廃棄物排出量の削減	kg	1,680	1,500	1,100	136%	○
水総使用量の削減	m ³	7,021		1,692		
水総使用量／売上高	m ³ /千円	0.053	0.014	0.015	93%	△
組織本来の取組（環境配慮）	件数	1	1	1	100%	○
売上高	千円	131,927	113,000	109,195	97%	△

【評価基準】

○:達成 △:未達成だが、努力が見られる ×:未達成

【コメント】

- ①電球を徐々にLEDに交換しているため二酸化炭素の削減につながった。
- ②冷気が逃げないように、冷蔵庫の開閉を少なく工夫した。
- ③水使用量は目標に対しては漏水対応したが、前年より229増えたのはパレット洗浄するのに増えた。

7. 環境経営活動計画の取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容

1) 本社（化成品事業部・管理部（不動産事業含む）・カフェ）

環境目標	目的	活動計画	実施責任者	取り組み結果	評価	次年度の取り組み
(1) 二酸化炭素	A重油使用量の削減	・炉の計画的なメンテナンスにより燃焼効率を高める	西城	効率よく運転できるよう、定期的なメンテナンスを行い削減に努めた。	△	次年度も取組を継続
	電気使用量の削減	・エアコンフィルタ清掃を年二回実施 ・夏季におけるよしずや遮光カーテンの活用 ・クールビズ、ウォームビズ推進	藤井	エアコンフィルタの清掃の継続が出来た。 夏季に工場の運転を停止したことや電気がLEDのため電気量が削減した。	○	次年度も取組を継続
	ガソリンの二酸化炭素削減	・出張時の公共交通機関の利用推進 ・エコドライブの励行	福岡	運転日誌にエコドライブに努めたかの記入をすることで意識付けすることができた。	○	次年度も継続して取り組む。
(2) 廃棄物	一般廃棄物の削減	・分別、ペーパーレス化 ・文書管理の徹底	福岡	スキャナーによりデータをPC保存。 事務所では、毎月1人1人コピー印刷の数値目標を決め、文書管理の徹底を行う事で削減を意識付けすることができた。	○	次年度も取組を継続
	産業廃棄物の削減	・保管状態の改善、5S ・分別の徹底	藤井	分別の徹底、管理が行えた。 5Sのパトロールも定期的に行えた。	○	次年度も取組を継続
(3) 食品(食品添加物)廃棄物のリサイクル率	食品廃棄物の削減	・二次製品再利用法の開発 ・廃油のリサイクル業者への提供 ・トンネルコンポスト方式を行う業者への回収の依頼	中野 福岡	廃油、食物残渣は全量リサイクル業者およびトンネルコンポスト方式を行う業者へ回収依頼を行えた。	○	次年度も取組を継続
(4) 水使用量	水使用量の削減	・節水ポスターなどで、節水意識の向上を図る ・漏水点検を行う	藤井	水道蛇口・配管の点検を行い、水漏れ防止に努めた。	○	次年度も取組を継続
(5) 環境教育	環境教育	・緊急時対応＝消防訓練・A重油漏洩対策対応訓練 ・教育訓練年間計画に基づき実施(5S活動含む)	福岡 岑永	1/11A重油対応訓練実施 3/25消防訓練実施 安全パトロールを定期的に行い、危険個所があれば各担当部署で確認し安全対策を行った。	○	次年度も取組を継続
(6) 組織本来の取組	組織本来の取組	・環境配慮 ・新商品開発 ・小盛への対応	多田 福岡	カフェでは、廃棄が無いよう仕入れを毎日することで量を調整している。また、肉は冷凍することで廃棄を無くするよう心掛けている。 食品廃棄物が出ないような新メニューの提案。	○	次年度も取組を継続

【評価基準】

- ：計画通り実施
- △：一部出来ていない
- ×：出来ていない

7. 環境経営活動計画の取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容

2) 坂出冷蔵倉庫

環境目標	目的	活動計画	実施 責任者	取り組み結果	評価	次年度の取り組み
(1) 二酸化炭素	電気使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド監視装置による確認(デマンド値を下げる) ・エアコンフィルタ清掃を年二回実施 ・クールビズ、ウォームビズ推進 	石田	デマンドの確認を行い、設定数値より上がらないよう努力した。使用していない時は、電気を消すよう社員一人一人が徹底して行った。エアコンの温度は、夏は28度設定、冬はなるべく服をたくさん着るなどしエアコンをなるべく入れないように節電に取り組んだ。	△	次年度も取組を継続
(2) 廃棄物	一般廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・分別、ペーパーレス化 ・文書管理の徹底 	橋川	ごみの分別を徹底した。請求書も、PDFが可能な限り行い、ペーパーレスに取り組んだ。	○	次年度も取組を継続
	産業廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・保管状態の改善、5S ・分別の徹底 	橋川	無償で回収してもらえる業者に、段ボール、フィルムを処理してもらうことで、削減できた。よって、産廃コンテナの撤去にまで持ち込めた。	○	次年度も取組を継続
(3) 水使用量	水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・節水ポスターなどで、節水意識の向上を図る ・漏水点検を行う 	小森	社外設置の水道は、勝手に使えないよう水道のハンドルを外すようにした。トイレの手洗いの水圧を麻エル為、本体のレバーで調節し、節電に取り組んだ。	△	次年度も取組を継続
(4) 組織本来の取組	組織本来の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮 	石田	社外の土の部分コンクリートにすることで、草の除去、ごきぶり、ねずみの侵入を防ぎ良い環境となった。残された土の部分で花壇を作るなど美化にも取り組めた。	○	次年度も取組を継続

【評価基準】

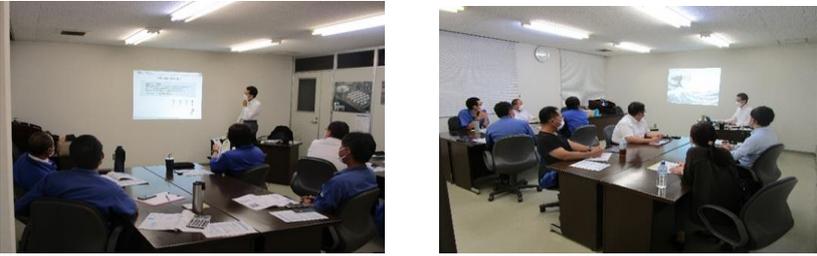
- : 計画通り実施
- △: 一部出来ていない
- ×: 出来ていない

<緊急時対応訓練>

実施時期	訓練内容
<p>2022年3月25日 (対象:全社員) <訓練実施の様子></p>	<p>(消防訓練) ・火災時の実施訓練(避難、通報、消火) ・火災時の手順書の検証</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">※避難訓練の様子</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">※消火訓練の様子</p> <p style="text-align: center;">手順書の確認を実施した結果、特に問題はなかった。避難等においても迅速に行えた。</p>
<p>2022年1月11日 (対象:化成品事業部) <訓練実施の様子></p>	<p>(A重油漏洩対策 対応訓練) ・A重油漏洩時の手順書の検証 ・A重油漏洩時の拡散防止処置の実地訓練</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">※配管の漏れを止める作業</p>

重油流出事故は毎年起こること。設備の劣化が原因。バルブの故障や防油堤のひび割れ等、気を付ける、ということを確認し、訓練は終了した。

<環境教育>

実施時期	訓練内容	
定期 (対象:全社員) (対象:管理職) (対象:現場社員) (対象:経営層)	<5S活動> ①社内清掃 ②社外周辺の清掃 ③管理職のための課題解決研修 ④現場社員のための組織行動力向上研修 ⑤脱炭素社会を生き抜くために！企業に求められる「SDGs×脱炭素経営」セミナー	実施日 21.11.29 1回目 21.5.9 2回目21.12.18 1日目21.8.18 2日目 21.8.24 1日目21.8.23 2日目 21.8.25 21.10.19
<訓練実施の様子>		
①		
21.11.19に工場内の草抜き、清掃を全社員で実施		
②		
21.5.9及び21.12.18に社外周辺の清掃を実施		
③管理職のための課題解決研修 受講者8名 訓練時間12時間		
組織課題に対し、業務の問題の本質を的確に捉え、業務の問題解決を図るための手法を学び、管理者として必要なる問題解決を実行するための知識と技能を習得する。		
④現場社員のための組織行動力向上研修 受講者22名 訓練時間12時間		
企業を取り巻く環境やステークホルダーの存在を認識し、企業の目的や生産活動の意義を考えながら、経営者視点を持ったビジネス感覚を養うことにより、主体的に問題解決を図ることが出来る		

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認

1. 違反、訴訟の有無

当社において、環境関連法の遵守状況をチェックした結果、環境関連法規の違反はありません。また、各関係機関からの違反、訴訟の指摘、外部からの訴訟及び苦情等もありません。

・環境関連法規等の順法状況

法的義務を受ける主な環境関連法規は次の通りである。

適用される法規 遵守すべき事項 遵守・評価

適用される法規	遵守すべき事項	遵守・評価
化審法	・一般化学物質の輸入(1トン以上)	○
労働安全衛生法	・労働者の安全と健康の確保	○
	・快適職場環境の形成	
毒物及び劇物取締法	・毒物及び劇物の販売	○
	・盗難／漏洩防止	
	・容器、貯蔵場所に表示 ・事故・盗難時届出(警察など)	
消防法	・指定数量未満の危険物保管の扱い	○
高圧ガス保安法	・高圧ガス容器置場や充てん容器は、容器置場の技術上の基準に従う。 ・容器の定期検査	○
食品衛生法	・営業の許可認可及び専任の食品衛生管理者の設置	○
廃棄物処理法	・一般廃棄物、産業廃棄物(廃プラ・廃油等)の適正な処理委託委託契約の締結、 処理業者の許可証の確認	○
	・廃棄物の収集、処理委託基準の遵守	
	・産業廃棄物の年間集計と知事報告	
食品リサイクル法	・平成23年度を基準に事業者ごとの再資源化率の目標達成を目指す	○
大気汚染防止法	・事故時の措置と届出	○
	・特定施設の届出	
	・排出基準の遵守	
	・排出濃度の測定・記録(3年保存)、監視	
オフロード法	・基準に適合した特定特殊自動車の使用	○
浄化槽法	・使用届	○
	・定期水質検査	
フロン排出抑制法	・フロン類の登録充填回収業者による適切な引き渡し	○
	・環境影響の少ない指定製品の使用に努める	
	・フロン類回収時の委託確認書交付と引取証明書の保存(3年間)	
	・引取証明書が30日以内に送付されない場合の知事への報告 対象：第1種特定機器 ・簡易点検(すべて 1回/3ヶ月以上) ・有資格者による定期点検 空調機器(7.5kW以上1回/3年以上、 50kW以上1回/年以上) 冷蔵冷凍機器(7.5kW以上 1回/年以上) ・点検記録の保存(廃棄まで)	
グリーン購入法	・できる限り環境物品等を選択するよう努める	○
香川県環境基本条例	・公害の防止その他の環境への負荷の低減又は自然環境の適正な保全のために必要な措置	○
三豊市環境基本条例	・事業活動で生じるばい煙、汚水、廃棄物等の処理及び公害防止	○
坂出市環境基本条例	・事業活動で生じるばい煙、汚水、廃棄物等の処理及び公害防止	○
	・地域環境の美化(空き缶、吸い殻等の投棄および犬のふんの放置を防止する)	

9. 代表者による全体評価と見直し・指示

レビュー項目		代表者の評価及び指示事項	
①環境活動の実施状況及び環境目標の達成状況	二酸化炭素削減		A重油は当初、重油量及び原単価ともに良い数値となっていたが、その後前窯の不具合が生じ、修繕に時間がかかり、その間燃焼効率を落としてしまった。今後も定期的なメンテナンスにより定期点検を確実なものにすることが必要。またシール不良が多発し、再溶解も増えたことで燃焼効率を落とした。電気使用量については節電に励み、一定の削減効果も見られた。来期より工場と事務所の電気に関し太陽光パネルを設置し、ほぼすべての電気をまかなえる予定である。坂出倉庫に関してもデマンド監視による節電を実施しており、倉庫への外気侵入を防ぎ、冷気の漏れを無くすことに注力した。
	廃棄物削減		設備更新5か年計画の最終年度に当たり、建屋の更新にともなう建材の廃材や不要設備の廃材が増えたことにより、費用的に一遍では処分できないこともあり場内に保管しているのが現状。すべて処分するには2・3年はかかると思われます。本社事務棟においては、紙ベースからデータベースへの移行が進み年々減少している。坂出倉庫に関しては一昨年の駐車場整備に伴う廃材もすべて処理が終え、今後は廃棄物の減少が可能になる。
	食品リサイクル率の向上		二次製品へのリサイクルを推進。
	水使用量の削減		節水ポスターでの呼びかけや配管点検及び修理を定期的に行うことで目標を達成できた。
	環境教育		三か月ごとのコミュニケーションミーティングでの環境教育やSDGs研修を実施し社員の環境に対する意識向上を図った。
	組織本来の取組		会社の経営理念を刷新し、今年より環境理念を追加した。「私たちは地球環境と企業活動の調和を図り、豊かな社会づくりと地球環境保全に貢献します。」
②その他		全社5S活動により、周辺環境整備に努める。定期的な除草・草刈が効果的。	
見直しの結果	現在のシステム	無	現在のシステムが有効に機能していることを確認した。
	推進体制の見直しの必要性	無	従来通り、各課責任者の協力を得ること。
	環境経営方針の見直しの必要性	無	継続する。
	環境経営目標の見直しの必要性	有	坂出の水使用量は見直しが必要。又、坂出の廃棄物目標は将来目標を見直す必要あり。
	登録範囲の見直しの必要性	無	
	全体評価 本社化成部は設備更新5か年計画の最終年度にあたり、建屋の取り壊し等による廃材や不要機器が大量に発生し、費用面から単年度では処理しきれないのでひとまず場内に保管している状態。坂出事業所は整備が終了し廃棄物は今後も減少の見込み。燃料に関しては二酸化炭素削減の観点から近い将来、A重油に変えてLNGに切り替えることを検討していたが、燃料費が4倍～5倍になるということで当分検討を保留した。電気代の高騰が予測される中、来期より本社事務棟及び化成工場の日中電気を太陽光発電でまかなうべく本年12月より工事を開始する。エコアクションの基本は5Sにあります。毎月定期的実施している5Sパトロールにより、工場環境も毎回清潔・安全な職場になってきている。これらは社員全員の環境に対する意識向上が不可欠で、これからも環境教育を継続し全員参加型のものにしていく必要があります。今年から刷新した会社の経営理念に「環境理念」を新たに改訂・追加し会社全体で環境に取り組んでいく決意をあらわした。		

実施日：2022年11月12日

代表取締役 塩田健一